

「子どもと湖が笑ってる未来へ」

NPO 碧いびわ湖 2015 年度活動レポート



綾さん宅でのオープンハウスの様子

子どもと湖が笑ってる未来へ

碧いびわ湖

この活動レポートは、碧いびわ湖の活動にご参画いただいている会員・支援者・利用者の皆様への感謝を含め、一年の成果を報告させていただくものです。また、碧いびわ湖の活動を初めて知ってくださった方々にも、事業内容のご理解の一助としてお目通しいただければ幸いです。

2015年度活動トピックス

碧いびわ湖の住まいづくりへの注目度アップ!



①新ストーブを説明する綾牧生さん(右)
②綾さん宅の外観。屋根には太陽熱温水器が設置されている=いづれも草津市

低炭素な「まちと建物」住宅見学会

雨水タンクや太陽熱温水器などを設置し、環境に優しい建物として、県一低炭素な『まちと建物』コンテストで表彰された草津市内の住宅の見学会が18日におこなった。事前申し込みで訪れた夫婦ら8人が、家の設備を見学したり住んでいる家族の話の話を聞いたりした。

エコな暮らしがざっしり

雨水タンク・太陽熱温水器 薪ストーブ……

県は昨年度、環境に優しいまちや建物を目指す取り組み

滋賀県主催の「低炭素な『まちと建物』コンテスト」で綾さん宅が受賞したことをきっかけに、碧いびわ湖の住まいづくりへの関心が高まりました。8回開催したオープンハウスの述べ参加者は大人103人、子ども50人。工務店や設計士さんも多数ご参加いただきました。マスコミ(朝日新聞、よみうり県民情報等)や、テレビ滋賀プラスワン(びわ湖放送)、琵琶湖博物館の取材(2016年度のびわ湖博物館のリニューアル後の展示で紹介予定)や、滋賀県立大学「地域資源・エネルギーコーディネーター育成プログラム」での見学などが相次ぎました。(関連5ページ)



↑朝日新聞記事(一部)
2015.4.19

←テレビ滋賀プラスワン
15.10.10放送
(ネットでご覧いただけます)

第二次せっけん運動の胎動!



リサイクルせっけんのリニューアルに向けた議論を皮切りに、NPO愛のまちエコ倶楽部と連携したせっけんの製造体制の構築、多様な団体の参画によるせっけん学習会の開催などが実現しました。(関連9ページ)

たまたばやしがますます豊かに!



たまたばやし(栗東・下戸山)では、ウッドデッキづくりや、「雨水プール大作戦」、「はなもも市」での子どもたちの出店など、子どもと大人が共に学ぶ場として、一層の充実が進みました。(関連7ページ)

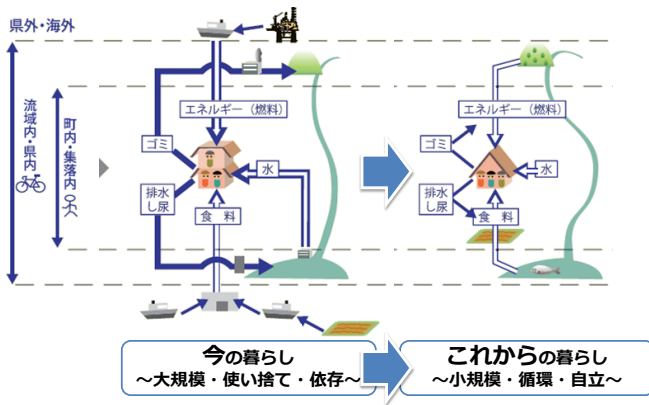
碧いびわ湖の活動概要

●はじまりは、びわ湖のせっけん運動でした



1977年に起きたびわ湖の赤潮をきっかけに広がった「せっけん運動」。その中から、当時の湖南消費生活協同組合が始めた「リサイクルせっけん運動」（リサイクルせっけんの供給と原料の廃食用油の回収）が碧いびわ湖の原点です。以来、一貫して「力を合わせ、身近なものを、大切に生かす」暮らしづくりに取り組んできました。

●目指すのは、子どもたちの未来に希望をもたらす自立循環型の地域社会



赤潮の後も終わらない、地球温暖化や原発事故などの問題…。化石燃料の大量消費と大規模なシステムに依存した暮らしはもう、限界に近づいています。

人と人、人と地域が豊かにつながる、小規模、自立、循環型の持続可能な暮らし。碧いびわ湖はその実現に取り組んでいます。

●「わたし」が基点。「買い物」「住まい」「地域コミュニティ」をつくり直す



“Be the Change.”とガンジーは言いました。社会を変えたければ、まず自分が変わろう、と。

自分の「買い物」「住まい」「地域コミュニティ」を、自分の足元から作り直していくこと。

碧いびわ湖の事業を利用し、活動に参加することで、私たちの暮らしと地域の未来に、本当の豊かさと安心を育てていきましょう。

● 買い物づくり ●

地元でとれるものやリサイクル資源を活かした循環型の暮らしを
作り手と買い手の顔が見える買い物で育てています



なかよし作業所の無農薬の青梅（栗東市）



「辺野古つながる手ぬぐい」1300円。300円が
カンパとしてびわ湖と辺野古との交流に活かされます



牛乳パックの回収とリサイクル製品の購入
（わたむき作業所エコドーム・日野町）

無農薬青梅の取扱を開始

地域に根ざした「暮らし」と「なりわい」を、購入者と生産者が交流しながら共に育む「買い物づくり」に取り組んでいます。今年度は、なかよし作業所（栗東市）と連携し、無農薬青梅の共同購入をはじめました。安心しておいしい梅シロップなどに役立てました。



どっぼ村（長浜市）のお米の共同購入

わたむきの里で牛乳パックリサイクル開始

社会福祉法人わたむきの里（日野町）で新たに、トイレットペーパーの利用と牛乳パックの回収を始めていただくことができました。

回収とともに、リサイクルトイレットペーパーを自らの施設でご利用いただくとともに、啓発品としてリサイクルティッシュ「おかえりティッシュ」を地域の皆様にお配りいただきました。



リサイクル粉せっけん「びわ湖」の共同購入と原料の廃食用油の回収

つながる手ぬぐいで、辺野古との交流が実現

また会員活動の「あまいろだより」から生まれた寄付つきアイテム「辺野古つながる手ぬぐい」の取扱をはじめました。1枚あたり300円のカンパの積立が約17万円となり、滋賀から辺野古への訪問を2回、実現することができました。



「小さな購入拠点」での菜種油やせっけんなどの供給（写真：カフェ古良慕・高島市）

<数字で見る2015年度実績>

●リサイクル	リサイクル粉せっけん供給	4,932kg	原料用廃食用油供給	40,060kg
	リサイクルトシベ供給	11,144袋	原料用牛乳パック供給	352,620kg
	リサイクルティッシュ供給	5,034袋		
●地域食材	地域産無農薬・減農薬米供給	4,144kg		
	地域産菜種油供給	236kg		
●森林活用	地域産間伐材利用紙供給	56ケース		

● 住まいづくり ●

雨水や太陽熱や森の木々などの身近な資源と、地域の職人の技術を活かし
持続可能で災害にも備える、安心ですこやかな住まいとまちを育みます



愛東（東近江市）の松本さん宅でも「天然住宅」とのコラボでオープンハウスを実施し、農ある暮らしを実感。



洗濯やトイレに使える大型雨水タンクの設置



碧いびわ湖の住まいづくりの紹介冊子を発行

会員交流会やオープンハウスを開催

会員総会に合わせて、後藤さん宅（東近江市）で「いい住まいづくりって？」をテーマに会員交流会を開催し、二組のお施主さん&大工さんのお話を伺いました。

また、綾さん宅で7回、松本さん宅で1回のオープンハウスを開催しました。参加された方々からは「雨水や太陽熱の良さが実感できた」「自分のこれからの住まいのイメージが湧いた」など、さまざまな感想をいただき、ご自身の住まいづくりに活かしていただいています。

雨水洗濯や太陽熱給湯などを普及

小型の雨水タンク、大型の雨水利用システム（洗濯やトイレ用）、太陽熱温水器、薪ストーブ、ペレットストーブの設置を進めました。

イベントでは「雨水とせっけんでの洗濯」や「太陽熱での焼き芋」などの体験を出展し、親子で雨や太陽熱の良さを実感していただく取り組みを進めました。

住まいづくりの冊子を制作

碧いびわ湖の住まいづくりをビジュアルで紹介した冊子「雨と お日さまと 森の木々と 暮らしつながる」を制作、発行し、配布を開始しました。



雨水タンクの設置工事



太陽熱温水器の設置



雨水とせっけんでの洗濯体験

<数字で見る 2015 年度実績>

●小型雨水タンク（～300L）	3件	●大型雨水利用システム（1t～）	5件
●太陽熱利用機器設置	8件	●薪ストーブ・ペレットストーブ設置	2件
●その他リフォーム等工事	15件		

● 地域づくり ●

子どもたちが未来に希望を持って、安心してのびのびと育ていける
人のぬくもりと自然の恵みにあふれた地域コミュニティを育てています



身近な自然の中で、親子で遊ぶ野外子育て広場（目田川・守山市）



子どもたちが畑で育てたさつまいもで出店
（はなもも市・栗東市）



ホテルの自生する川づくりを考えるワークショップ
（県立守山高校）

たまたばやしがますます充実

「子どもと大人が共に学び育つ場」として、竹林を切り拓いて整備してきた「たまたばやし」では、今年度新たに、ウッドデッキづくり、雨水を使ったプール遊び、下戸山マルシェ「はなもも市」の開催と子ども出店などを行いました（平和堂財団夏原グラント助成金を活用）。

平日の野外保育での活用、立命館大学のインターンシップの受け入れなども行い、さまざまな人々の出会いと学びと交流の場としてさらに充実してきました。

野外子育て広場を開催

昨年に引き続き、たまたばやし（栗東市）と目田川（守山市）で、それぞれ月1回の「野外子育て広場」を開催しました。（滋賀県子ども未来基金助成を活用）。

のびのびした自然の中での交流を通じ、子どもたちの五感を活かした自然体験と、母親同士の顔の見えるつながりを育むことができました。

ホタルの自生する川づくりに高校生と挑戦

守山市では新たに、まちづくり会社みらいもりやま21、NPOびわこ豊穰の郷、県立守山高校、守山市と連携し、「小さな自然再生」の手法を使った「ホタルの自生する川づくり」へのチャレンジを同校の生徒たちと共にスタートしました。



はなもも市（下戸山・栗東市）



竹や薪で調理するお昼ごはん



雨水プール大作戦

<数字で見る2015年度実績>

●野外子育て広場	実施回数 23回	のべ参加者数 大人289人 子ども379人
----------	----------	-----------------------

○ つながり・ひろがり ○

会員同士の交流と活動の活性化、多様な団体・企業・行政との連携で
一人ではできないこと、一団体ではできないことを共に形にしています



長谷川治さん（洗剤・環境科学研究会、太陽油脂特別顧問）をお招きしての学習会
（あいとうエコプラザ菜の花館・東近江市）



どっぼ村の無農薬大豆を選別しながら、子育てや教育についての語り合う→あまいろチャンネルで聴けます



NPOと企業との連携について議論（マザーレイクフォーラムびわこコミ会議・コラボ21・大津市）

第二次せっけん運動へ、団体間連携を推進。

碧いびわ湖がオリジナルで製造・供給しているリサイクル液体せっけん「ゆう」のリニューアルや製造場所の移転についての取り組みを皮切りに、NPO愛のまちエコ倶楽部との連携を深めました。

12月と2月には、せっけん生活の普及に取り組んでいるさまざまな団体の参画も得て、2回のせっけん学習会を実現することができました。そして、せっけん生活と循環型の暮らしの普及を目指す団体間連携「ぐるぐるびわ湖プロジェクト」がスタートしました。（参加団体：愛のまちエコ倶楽部、碧いびわ湖、安全農産供給センター、関西よつば連絡会、暮らしを考える会、滋賀県地域女性団体連合会、生活クラブ生協）



菜の花館での液体せっけん製造



ぐるぐるびわ湖プロジェクトの会議

市民ラジオ「あまいろチャンネル」スタート！

「あまいろだより」の発行を行っている会員活動「あまいろ探偵団」から市民ラジオ「あまいろチャンネル」が生まれました。子育て世代の仲間の対話、有識者の深いお話などを手軽に聴ける市民メディアの誕生です。

企業とNPOとの連携に向けた議論を継続

県民が主体となった琵琶湖の保全と持続的な利活用を目指すマザーレイクフォーラムの「びわコミ会議」で、昨年度に引き続き、地域の中での企業とNPOとの連携の推進に向けた議論を行いました。



あまいろチャンネル——声をつなぐ市民ラジオ
2016年度、私たちは、本づつり市民メディア「あまいろだより」のつづりから、ゆるやかに広がる
持続的なチャンネルに力を注ぎます。

市民ラジオ「あまいろチャンネル」

<数字で見る2015年度実績>

●運営会員	162人（前年度比+20人）	●賛助会員	28人（前年度比+13人）
●一般寄付	個人20人 法人1		

— あなたも、共に。 —

「子どもと湖が笑ってる未来へ」

その合言葉には、すべての子どもたちが未来に希望を持ち、安心して育ていける社会を実現したい、との想いが込められています。

私たち一人一人の「暮らし」には、社会をつくり直す力があります。

育んでいきましょう、未来を。

みんなと、共に。あなたも、共に。

🔄知る



(碧いびわ湖の Facebook)

Facebook やブログで情報を発信しています。情報紙「あまいろだより」や市民ラジオ「あまいろチャンネル」でも、興味深い話題が発信されています。ぜひご覧になってください。

🔄参加する



(野外子育て広場)

野外子育て広場やオープンハウスを定期的で開催しています。和やかな空間と温かい人の環の中で、これからの子どもたちの育ちと暮らしのあり方について、語り合しましょう。

🔄利用する



(取扱い品の一部)

せっけん、お米、菜種油などをお届けする「共同購入」雨水や太陽熱利用設備を設置する「住まいづくり」等の事業を行っています。会員でなくてもご利用いただけます。詳しくはホームページで。

🔄ご入会・ご寄付のお願い

私どもの活動に共感いただけましたら、担い手（運営会員／年会費一口 1000 円）や支援者（賛助会員／年会費一口 3000 円）として入会いただいたり、ご寄付でご支援いただければ誠に幸いです。お寄せいただいた会費やご寄付は、活動の活性化と事業充実のため、大切に活用させていただきます。

特定非営利活動法人 碧いびわ湖
521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦3
電話 0748-46-4551
FAX 0748-46-4550
メール info@aoibiwako.org
HP <http://aoibiwako.shiga-saku.net/>

子どもと湖が笑ってる未来へ

碧いびわ湖